

湛水土中(カルパー)直播栽培特報 第1号

令和3年4月
富山農林振興センター
富山市農業協同組合

播種～苗立ちまでのポイント(コシヒカリを中心に)

- ① 播種深度は5～10mmとし、60本/m²(18本/m)程度の適正苗立本数の確保
- ② 土壌条件に応じた基肥基準量の厳守(移植栽培より窒素成分で1割程度減肥)
- ③ 播種後の田干しの実施(苗立ちの安定化)

ほ場準備(耕起～代かき)

- ・ほ場の均平が悪いと播種ムラや出芽ムラが発生しやすくなります。耕起から砕土・整地の作業は、移植より丁寧に行いましょう。
- ・代かきは、少なめの水で行い、稲株や雑草をしっかりすき込みましょう。ただし、ねり過ぎないように注意しましょう。
- ・代かきから播種までの日数は、砂壤土1～2日、壤土2～3日を目安にしましょう。

基肥

- ・基肥は、窒素成分で移植栽培の1割程度の減肥としましょう(表1)。
- ※大豆跡田では、倒伏の危険性が高いので、コシヒカリの直播はできるだけ避けましょう。やむを得ず行う場合は分施肥体系としましょう。
- ※てんこもりを直播する場合、基肥量はコシヒカリ(直播)より窒素成分で1kg程度増量してください。

表1 施肥基準(コシヒカリ)

土質	直播用基肥一発 (LPss直播コシヒカリ)		分施:側条施肥 (基肥206)	
	施用量 (kg/10a)	N成分 (kg/10a)	施用量 (kg/10a)	N成分 (kg/10a)
砂壤土～砂質浅耕土	35	7.4	30	3.5
壤土	30	6.3	25	3.0

表2 播種作業の目安

播種量		播種深度 (地表面から)
乾粒重量	落下粒数	
2.5～3.0kg/10a	28～33粒/m	5～10mm

播種

- ・播種の適期は、**4月25日～5月10日**です。
- ・播種前の落水は、播種作業が午前中の場合は前日の夕方に、午後の場合は当日の早朝を目安とし、土壌条件や気象条件に応じて行いましょう。

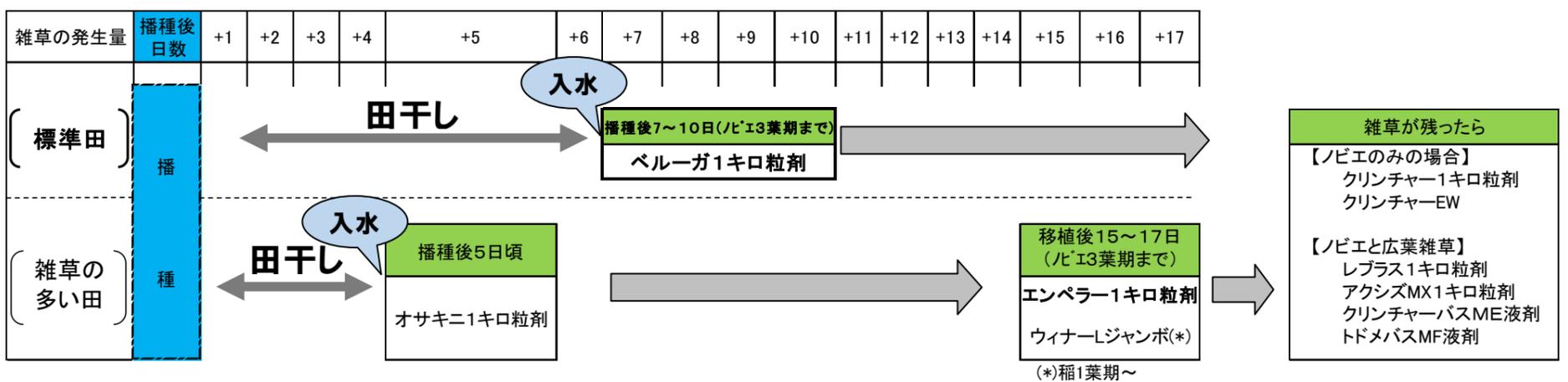


播種後の水管理

- ・出芽が揃う(**播種後5～7日程度**)まで、土壌表面に亀裂が入る程度の**田干し**を行いましょう。ただし、強い降雨や強い風が吹く場合には入水してください。
- ・播種後、覆土が不十分で鳥害が懸念される場合は、田干し前に半日程度湛水しましょう。
- ・**田干し後は、浅水管理**を徹底し、初期分けつの確保に努めましょう。

除草剤の散布

※散布後5日間は確実に**湛水状態**を維持し、散布後7日間は**止水管理**(落水しない)！！



- ・気温が高いと散布適期が更に狭くなるため、散布時期が遅れないようにイネとヒエの葉齢を確認しましょう。
- ・田面の亀裂が大きい場合は、入水後、減水が落ち着いてから散布しましょう。

鳥害対策

- ・カモ: ほ場に糸やテープを張り、侵入を防ぎましょう。侵入した場合は、落水し被害を最小限に抑えましょう。
- ・スズメ: 糞が露出した部分で被害が出やすいので、播種後に糞が露出している場合は半日程度湛水しましょう。スズメが侵入した場合は、速やかに入水しましょう。
- ・カラス: カラスは、スズメやカモのような水管理による対策は困難です。カラスが多い場所での直播は避けましょう。

春の農作業安全運動展開中(4/1～5/31)